


議 長	事務局長	主 幹	係
			


令和2年 2月 6日


藤崎町議会議長 小 野 稔 殿

藤崎町議会 総務産業常任委員会

委員長 奈良岡 文 英 

副委員長 三 上 道 人 

委 員 阿 部 祐 己 

委 員 吉 村 忠 男 

委 員 相 馬 勝 治 

委 員 横 山 哲 英 

委 員 浅 利 直 志 

総務産業常任委員会委員派遣（行政視察研修）結果報告書

下記のとおり、総務産業常任委員会委員派遣（行政視察研修）を終了しましたので、その結果を報告します。

1. 派遣目的
  - ・住民主体による地域づくりの推進について
  - ・各道の駅の運営状況と取組について
2. 派遣場所 山形県川西町、米沢市、飯豊町
3. 派遣期間 令和2年1月21日（火）から1月23日（木）までの3日間
4. 派遣内容 別紙（研修報告書）のとおり



## 『総務産業常任委員会視察研修報告書』

総務産業常任委員会では、去る1月21日より23日にかけて山形県置賜地方へ「住民主体による地域づくりの推進について」そして、「道の駅の運営状況と取り組みについて」をテーマとして行政視察研修を行いましたのでご報告いたします。

今回伺った山形県置賜地方は、山形県南部の内陸部に位置します。米沢市、南陽市、長井市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町の3市5町からなり、人口は20万6千人程で、私たちの住む弘前圏域よりも一回り小さくした、米沢藩の城下町である米沢市を中心に栄えた地域です。

戦国武将の上杉謙信、米沢藩を飢饉から救った上杉鷹山が有名です。上杉鷹山の名前を知らない方でもこの言葉はご存じかと思えます。

『なせば為る、成さねば為らぬ、何事も。成らぬは人のなさぬなりけり』

意味は、皆さんご存じの通り『やろうと思えば何でもできます。出来ないのはやろうと思わないからです。やろうとすることは他人の為ではなく、自分の為になるのです。』と説いた人です。

さて、今回の研修では置賜地方の中で川西町の『特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク』における地域活動と運営に関する講義、飯豊町の『道の駅いいで』における道の駅の運営状況の説明及び運営方法についてお話を聞いてきましたのでご報告します。

初めに、『特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク』があります川西町は、約5,000世帯、人口15,000人で、我が藤崎町とほぼ同じです。面積は166平方キロで、藤崎町の約4倍です。小学校が6校、中学校が1校です。

特産品は特Aランク米の「つや姫」ブランド牛「米沢牛」が全国的に有名です。

川西町では、古くから田植えや稲刈り等の農作業時には地域住民がお互いに助け合い、労働力を提供しあう「結(ゆい)」が行われてきました。

こちらだと「となりぐみ」と似たようなものでしょうか。

その「結」の精神が受け継がれて発展し生まれたのが、『特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク』になります。

この組織は、川西町を大きく6つのブロックに分けた1つである吉島地区で構成されていて人口約2,500人、全世帯720世帯、22の自治会がきらりよしじまネットワークに加入しているそうです。そして、加入者みんなで役割を担い、地域の行事や活動に協力し連携しているそうです。

組織構成として、自治部会・環境衛生部会・福祉部会・教育部会の4つの部会からなっています。

自治部会は、地域の防災活動や災害対策などの自主防災組織事業や子どもたちの防犯や安全対策を講ずる、吉島っ子見守り隊の活動、住民の所得向上と交流を図る産直市場を開設する地域交流事業等を行っているようです。

環境衛生部会は、資源ごみの回収、てんぷら油の廃油回収と再利用による石鹼作り、清掃ボランティアによる環境保全事業を行っているようです。

福祉部会は、学童クラブ運営事業、高齢者の生涯学習と介護予防を目的とし、尚且つ子ども達との交流を図る「燦燦塾(さんさんじゅく)」の開催、老人クラブ、ボランティア会、趣味の会などが交流を深めるための福祉活動を行っているようです。

教育部会は、保護者向けに躰や子育てについて話し合う交流の場づくり、世代間交流を深める青少年健全育成事業、健康づくりのスポーツ事業を展開しているそうです。

川西町の『特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク』の視察では、今まで行政が音頭を取って行っていた活動を地域住民が自ら

率先して活動する事の重要性を感じました。吉島地区では行政指導型から住民参加型への移行がスムーズになされているようです。

22の自治会から推薦を受けた地域の若者を組織に加入させて、組織内で実務訓練を施し責任者として育成して自治会へ帰す、そして新たな若者を加入させて育てるサイクルを構築している事は人材育成や地域交流、世代間交流にはとても素晴らしい取り組みであると感心しました。こちらの所長さんの言葉で吉島地区のすべての事業や活動、役割については充て職をしていないので、皆さんが真剣に取り組んでいる。そして新陳代謝が進んでいる事により新しい発想やアイデアが出てくると話しておられた事が印象に残っています。

正直なところ、我が町においては地域活動の担い手不足により、町内会長さんや一部の方々にたくさんのご負担を強いているのが実情です。若い世代の育成が重要課題だと感じました。

ちなみに、この組織の事業規模は約7,000万円です。資金は行政からの委託金や地域720世帯の会費だそうです。各自治会費とは別に会費を募っており1,500円/世帯程度と聞いています。

#### \*行政との対等な関係を構築

「協働」に対して行政内部との認識の違いがあるなど課題があったので、行政が地域の協働提案を受け入れる体制を整備するために積極的に関与

続きまして、『道の駅いいで』があります飯豊町は、2,400世帯、人口は約7,000人です。面積は329平方キロです。ピーク時の人口は16,000人であった。小学校4校、中学校1校。

特産品は「いいで牛(米沢牛の主産地)」、こくわワイン、どぶろく、いいで米。

飯豊町は米沢牛の主産地でありながら米沢市に遠慮して「米沢牛」と言わず、あえて「いいで牛」としてブランド化しています。

『道の駅いいで』は平成9年に第三セクター方式で資本金5,000万円、町が51%の出資をして町長が代表取締役となりオープンしました。

現在は約40名が従事しており、正社員は6名。臨時社員、期間雇用、パート・アルバイトが34名となっています。こちらの道の駅には、企画営業部がありその中に営業担当を配置し、積極的に企業や旅行会社向け、更には台湾等の海外にまでセールス展開しています。団体収容では300名を超える来客に対応可能との事です。

年間売上は約7億円、年間来場者数は100万人を突破しています。人口7,000人の町に100万人ですよ！

しかしながら、オープン当初から順風満帆であったわけではなかったそうです。オープンより5年間は赤字経営であったそうです。累積債務も4,900万円まで膨れ上がり破綻寸前であったようです。オープン4年目に、かの有名なイオンより赤自店舗立て直し担当バイヤーを呼び寄せ、わずか2年で赤字を解消したそうです。以降、17年間連続して黒字経営をしているそうです。

ちなみに町からの助成金は一切なしだそうです。それどころか、施設使用料として年間2,000万円から2,500万円を町へ納めているそうです。

現在は施設の修繕費を町に負担してもらっているそうですが、その部分も近々に自己管理にする予定だそうです。

昨今の道の駅・物産館では、レストランやお食事処の飲食部門で数字を確保している所が多いとの事ですが、『道の駅いいで』では300名程の団体客の収容が可能であることにより、物産品の売り上げ大きく寄与しているそうです。

また、近隣にデパートやスーパーが少ないために、地域住民の台所としての品揃えや販売体制も取られているとの事です。

更に地場産品販売の為に、ふるさと納税返礼品の対応、インターネット販売、東京にアンテナショップの開設など意欲的に販売ルートを開

拡張しているそうです。

17年連続して黒字経営の『道の駅いいで』ですが、道の駅の経営にあたり、最大のボトルネックとなっているのが、冬期閑散期の労働者の処遇についてです。

こちらでは、変形労働時間制を採用して、臨時社員やパート・アルバイトを上手く就労させる努力をし、特に母子家庭世帯や世帯の主収入者については極力通年雇用するなどの配慮がされているそうです。

また、若い社員や臨時社員さんたちにも接客マナー講習や人材育成に力を入れているそうです。

飯豊町の『道の駅いいで』の視察では、ここはどんな施設で、何をしなければならぬのかをはっきりと明確に自己認識している事。当たり前前の事ではありますが意識の高さに感銘を受けました。町が51%の出資をして町長が代表取締役ではありますが、その町長を面前にして、施設運営に関して町長は勿論、役場職員にも口出しはさせないと言葉にした施設責任者の企業運営に対する熱い思いが感じられました。

最後になりますが、今回の視察研修において共通して感じた事は、『現状打破』、『自分たちの事は自分たちで』行政任せにしないで現場にいる自分たちが何とかしようと言う強い意志、そして数字に対してシビアに精査し改善に取り組む事の重要性でした。

そして何よりも、将来を見据えた人材の育成に力を入れて取り組んでいる姿勢には共感を覚え、非常に意義のある視察研修でありました。

以上、総務産業常任委員会行政視察研修のご報告でした。

**総務産業常任委員会**








**副委員長 三 上 道 人**

議 長	事務局 長	主 幹	係
			

令和元年12月2日

藤崎町議会  
議長 小野 稔 殿

藤崎町議会議員（総務産業常任委員会）

奈良岡 文 英  三 上 道 人   
阿 部 祐 己  吉 村 忠 男   
相 馬 勝 治  横 山 哲 英   
浅 利 直 志 

## 議員研修計画書

このことについて、下記のとおり実施計画書を提出します。

### 記

- 期 日 令和2年1月21日（火）～ 令和2年1月23日（木）
- 研修先 ①山形県東置賜郡川西町  
（研修場所：道の駅かわにし森のマルシェ、  
NPO法人きらりよしじまネットワーク）  
②山形県西置賜郡飯豊町  
（研修場所：道の駅いいで）  
③山形県米沢市  
（研修場所：上杉神社・稽照殿）
- 研修目的 ・住民主体による地域づくりの推進について  
・各道の駅の運営状況と取組について
- 代表者 奈良岡 文 英



## 藤崎町議会総務産業常任委員会視察研修行程

1日目 令和2年1月21日（火）

午前8時50分 現地集合

午前9時08分 北常盤駅出発

午後2時～

山形県川西町 道の駅かわにし森のマルシェ視察（自由見学）

山形県米沢市 東京第一ホテル 宿泊

2日目 令和2年1月22日（水）

午前10時～

山形県米沢市 上杉神社・稽照殿視察（自由見学）

午後1時～

山形県東置賜郡川西町 吉島地区交流センター

NPO法人きらりよしじまネットワーク視察（センターの説明あり）

山形県上山市 かみのやま温泉葉山館 宿泊

3日目 令和2年1月23日（木）

午前10時～

山形県西置賜郡飯豊町 道の駅いいで視察（道の駅の説明あり）

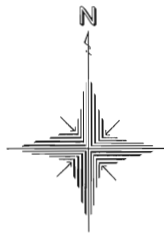
午後6時00分 北常盤駅着 帰町 現地解散



# 山形県

## 2017

平成29年10月1日現在



0 10 20km

A

B

C

D

1

2

3

4

5

飽海郡  
遊佐町

酒田市

真室川町

金山町

鮭川村

新庄市

最上町

東田川郡

三川町

最上郡

戸沢村

舟形町

庄内町

鶴岡市

大蔵村

大石田町

尾花沢市

北村山郡

村山市

西川町

寒河江市

河北町

西村山郡

東根市

大江町

天童市

西村山郡

中山町

東村山郡

山形市

朝日町

山辺町

西置賜郡

白鷹町

長井市

上山市

南陽市

小国町

西置賜郡

東置賜郡

高皇町

川西町

飯豊町

米沢市

